

令和 4 年度 大王崎観光駐車場公衆トイレ解体工事

解体仕様書

II 建築解体工事仕様

1. 共通仕様
(1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、三重県公共工事共通仕様書及び「建築物解体工事共通仕様書（平成31年度）」（以下、「解体共通仕様書」という。）により、解体共通仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成31年版）」（以下、「標準仕様書」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成31年版）」（以下、「改修標準仕様書」という）「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）（平成31年版）」、「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（平成31年版）」による。
また、解体共通仕様書中「請負者」とあるのは、「受注者」と読み替えるものとする。
(2) 改修工事を本工事に含む場合は、各改修仕様書を適用する。

2. 特記仕様
(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項の中で選択する事項（・印の付いたもの）は、⊙印の付いたものを適用する。
(3) 特記事項に記載の[解]内表示番号は、解体共通仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。特記事項に記載の[改]内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。特記事項に記載の[標]内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
(4) 東海地震に係る地震防災対策強化地域内における工事にあっては「大規模地震対策特別措置法」による注意情報が発せられた場合、受注者は人身の保護及び安全な避難に必要な補強、落下防止等の保防止等の保全措置を講ずるとともに、工事中断の措置をとること。又この事実が発生した場合は、契約書第26条（臨機の措置）によって処理されたものとする。

章	項 目	特 記 事 項
一般 共通 事項	①適用基準等	三重県建設副産物処理基準 工事写真の撮り方（改訂第二版）建築編 建設大臣官庁官庁営繕部監修
	2 工事実績情報の登録	[解1.1.4] 請負代金額が500万円以上（消費税込み）の元請負人は、工事実績情報を（財）日本建設情報総合センターの工事実績情報システム（CORINS）に登録するものとする。 なお、登録内容を訂正する必要が生じた場合は、標準仕様書に記載された登録の手順に準じて訂正するものとする。 また、変更契約日と工事完了日の間が、10日に満たない場合は、変更契約時の登録を省略することができるものとする。
	③工事の記録	工事写真 [解1.2.3]
	4 電気保安技術者	・適用する [解1.3.3]
	⑤施工条件	⓪施工時間 ⊙ 8：00～17：00) [解1.3.5] ⓪施工順序 ⊙ 指定なし ・図示 ・) ⓪工事用車両の駐車場 ⊙ 指定なし ・図示 ・敷地内 ・) ⓪資機材置場 ⊙ 指定なし ・図示 ・敷地内 ・) ⓪現場事務所 ⊙ 指定なし ・図示 ・敷地内 ・)
	⑥発生材の処理等	発注者に引渡しを要するもの [解1.3.10] ・金属類 ・PCB含有物（5章 3～4項参照） ・引渡しを要するもの、再資源化を図るものについては調査を作成して監督職員へ提出すること。 ⓪引き渡しに要する以外のものには、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資材の有効な利用を促進する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令によるほか、「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切に処理し監督職員に報告する。 (マフレストA、B2、D、E票を提示し、集計表を提出すること。)
	⑦騒音・振動の防止	⓪低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定に基づき指定された建設機械の使用に努めること。
⑧近隣との折衝	⓪工事の施工に当たっての近隣との折衝は、次による。また、その経過について記録し、遅滞なく監督職員に報告する。 (1) 地域住民等と工事の施工上必要な折衝を行うものとし、あらかじめその概要を監督職員に報告する。 (2) 工事に関して、第三者から説明の要求または苦情があった場合は、直ちに誠意をもって対応する。	
仮 設 工 事	①騒音・粉塵等の対策 [解2.2.1] ⓪建物高さより、H＝1.0mを対策高さとする。 ・防音パネル ⊙防音シート ・メッシュ金網、養生シート等 設置範囲及び高さ ・図示 ⊙仮設計画図（参考図）及び立面図 足場 ⊙さび緊結式足場 足場を設ける場合、「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省 平成21年4月）「手すり先行工法等に関するガイドライン」によるものとし、足場の組立、解体、変更の作業時及び使用時には、常時、すべての作業床について手すり、中さん及び幅木の機能を有するものを設置しなければならない。 なお、設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」（厚生労働省 平成21年4月「手すり先行工法に関するガイドライン」について（別紙1））における2の（2）手すり据置方式、又は（3）手すり先行専用足場方式により行うこと。	
	②監督職員事務所 [解2.3.1] ・設ける ・構内既存建物の一部を使用する。 ・構内に新設する。 規模(m2程度) ・10 ・20 ・35 ・65 ・100 ⓪設けない	

III 解体工事

③杭の解体
杭の解体工法
⓪杭の有無及び杭長については想定である為、設計変更については監督職員と協議すること。

④樹木等
樹木の伐採根及び移植
・行う ⊙行わない(ただし準備工として場内の除草を行うこと)

⑤地下埋設物、埋設配管
地中埋設物及び埋設配管の解体
⓪行う ・行わない

⑥解体後の整地
解体後の埋戻し及び盛土
⓪行う (各層30cm程度毎に締め固めること)
整地高さ ・現状G.L. ⊙ 図示
種別
⓪A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土
C種の場合
「建設発生土情報交換システム」を活用し、以下の土質の土とする
発生土利用基準（国営計第59号平成18年8月10日）
表－3 適用用途基準（1）・第1種、第2種、第3種
D種の場合
「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領（案）」により、六価クロム溶出試験を行う。
建設汚泥から再生した処理土の場合
「建設汚泥処理土利用技術基準について（国営計第41号 平成18年6月12日）表－4 建設汚泥処理土の適用用途基準」における下記の区分とする。
・第3種処理土
⓪ 図示参照（配置図）
・杭径、杭の位置、長さ等を調査・図示し、記録を整備し、監督職員に提出する。

5 調査記録

④発生材の処理等

注）以降4章及び5章に示す内容については、積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、提示する施設と異なる場合は、監督職員と協議する。

・建設副産物情報交換システムの利用
請負者は請負金額が500万円以上の工事については、工事着手前に「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を監督職員に提出すること。
また、工事完了後にはJACICが運営する「建設副産物情報交換システム」へ実施報告書を行うこと。
なお、これにより難しい場合は、監督職員と協議しなければならない。
本工事の施工にあたっては「建築工事における建設副産物管理マニュアル」を参考に適切な処理に努めるものとする。

特定建設資材の再資源化等

本工事が、特定建設資材を用いた建築物に係る解体工事又はその施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年5月31日法第104号）以下「建設リサイクル法」という。）施行令又は、都道府県が条例で定める建設工事等であって、その規模に関する基準以上の工事（以下「対象工事」という。）である場合は、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適切な措置を講ずることとする。
なお、本工事における特定建設資材の分別解体等・再資源化等については、別表1又は2、及び3の積算条件を設定しているが、工事請負契約書「7 解体工事に要する費用等」に定める事項は契約締結時に発注者と受注者の間で確認されたものであるため、発注者が積算上条件明示した別表の事項と別の方法であった場合でも変更の対象としない。但し、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものではない事項については、この限りでない。工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。
本工事が「建設リサイクル法」の対象工事外である場合においても前記に準じ適切な措置を講ずるものとする。

建設リサイクル法 ・対象工事 ⊙対象工事外

別表1 建築物に係る解体工事

工程ごとの作業内容及び解体方法		
工 程	作業内容	分別・解体の方法
⓪建築設備、内装材等	⓪有 ・無	⓪手作業 ・手作業と機械作業の併用
⓪屋根ふき材	⓪有 ・無	⓪手作業 ・手作業と機械作業の併用
⓪外装材・上部構造部分	⓪有 ・無	⓪手作業 ・手作業と機械作業の併用
⓪基礎、基礎ぐい	⓪有 ・無	⓪手作業 ・手作業と機械作業の併用
⓪その他 (アスベスト含有成形板)	⓪有 ・無	⓪手作業 ・手作業と機械作業の併用

別表3 建築物以外の物に係る解体工事又は新築工事等

⓪外構 ⓪工作物等

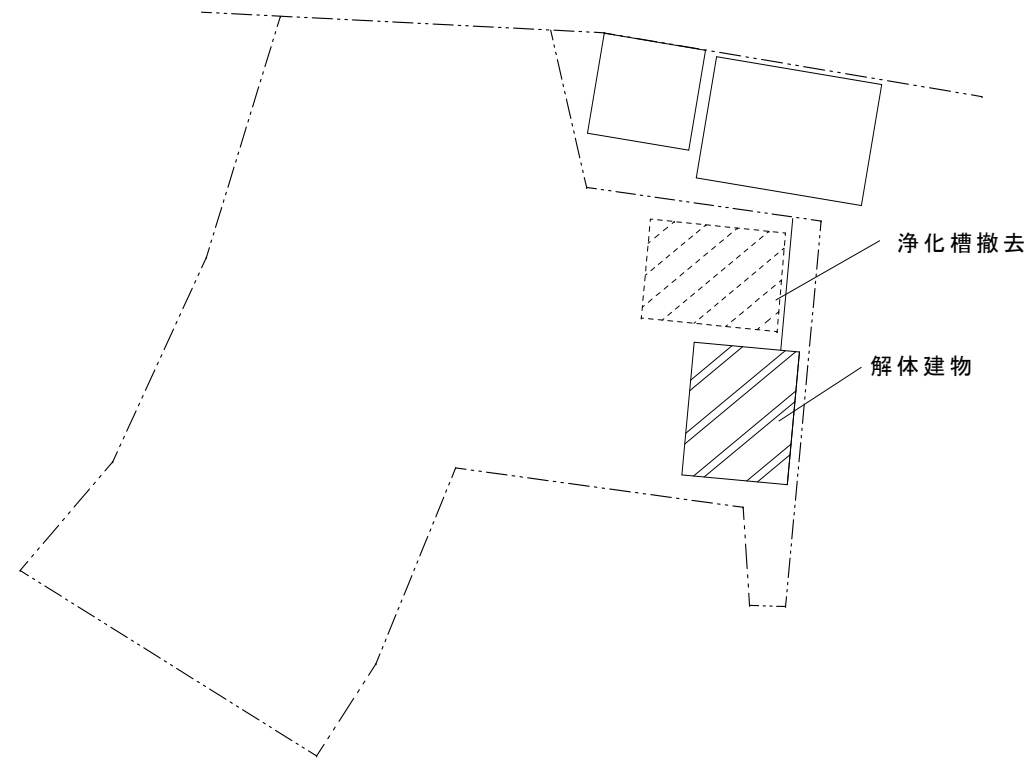
工程ごとの作業内容及び解体方法		
工 程	作業内容	分別・解体の方法
⓪仮設	⓪有 ・無	⓪手作業 ・手作業と機械作業の併用
⓪土工	⓪有 ・無	⓪手作業と機械作業の併用
⓪基礎	⓪有 ・無	⓪手作業 ・手作業と機械作業の併用
⓪本体構造	⓪有 ・無	⓪手作業と機械作業の併用
⓪本体付属品 水道配管およびバルブ類	⓪有 ・無	⓪手作業 ・手作業と機械作業の併用
⓪その他 (外構施設・遊具 等)	⓪有 ・無	⓪手作業 ・手作業と機械作業の併用

手作業・機械作業を併用する理由

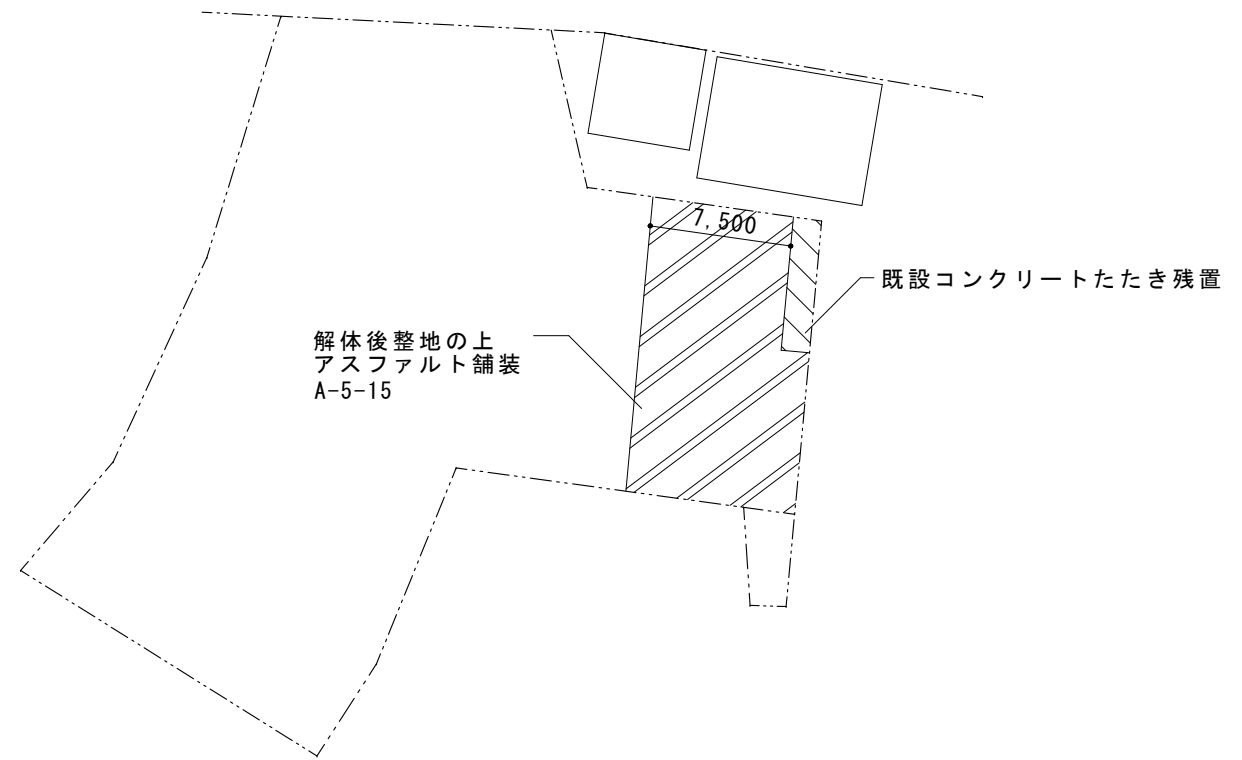
建築設備の取り外し (—)
内装材料の取り外し (—)
屋根ふき材の取り外し (—)

整理番号		工事名 令和4年度 大王崎観光駐車場公衆トイレ解体工事	図名	縮尺	志摩市役所		図面No. A-01

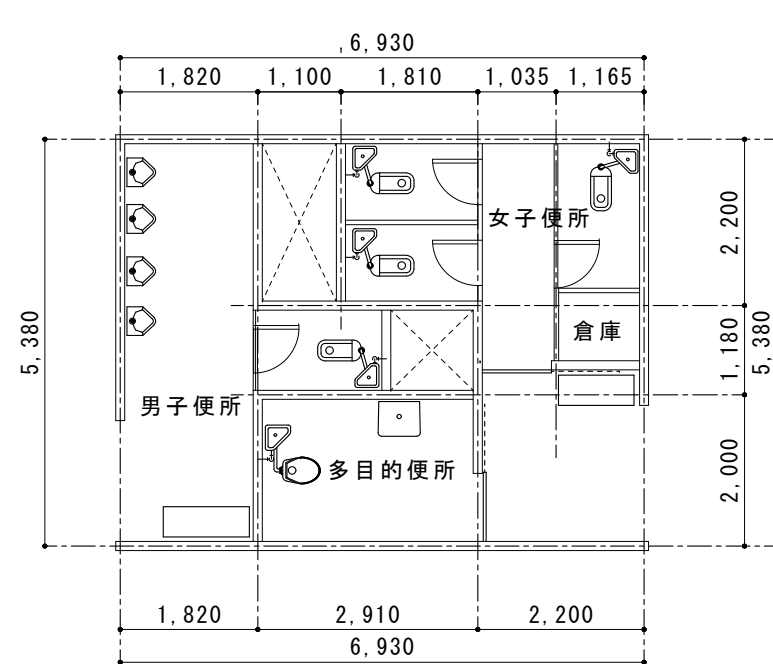
章	項 目	特 記 事 項	章	項 目	特 記 事 項	章	項 目	特 記 事 項	章	項 目	特 記 事 項																																																																																							
建設廃棄物の処理	②再資源化等	<div><table><tr><th>建設廃棄物の種類</th><th>中間処理施設又は再資源化施設の名称等</th><th>所 在 地</th></tr><tr><td>○コンクリート</td><td>・ ・</td><td>・</td></tr><tr><td>コンクリート及び鉄から成る建設資材（PC板、コンクリート平板、コックリト二次製品等）</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>○建設発生木材</td><td>・ ・</td><td>・</td></tr><tr><td>○アスファルト塊</td><td>・ ・</td><td>・</td></tr><tr><td>金属類</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>小型二次電池</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table><div><table><tr><th>建設廃棄物の種類</th><th>再資源化の有無</th><th>再資源化施設の名称等</th><th>所在地</th></tr><tr><td>○蛍光灯、H I Dランプ</td><td>・再資源化する ・再資源化しない</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>硬質塩化ビニル管・継手</td><td>・再資源化する ・再資源化しない</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>硬質塩化ビニルパイプ・鋼管・継手</td><td>・再資源化する ・再資源化しない</td><td>・</td><td>・</td></tr></table><p>○「水銀廃棄物（ドライ）」に基づき適切に処理すること。</p><table><tr><th>種 類</th><th>再利用する場所（箇所）等</th></tr><tr><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>・</td><td>・</td></tr></table></div></div>	建設廃棄物の種類	中間処理施設又は再資源化施設の名称等	所 在 地	○コンクリート	・ ・	・	コンクリート及び鉄から成る建設資材（PC板、コンクリート平板、コックリト二次製品等）	・	・	○建設発生木材	・ ・	・	○アスファルト塊	・ ・	・	金属類	・	・	小型二次電池	・	・				建設廃棄物の種類	再資源化の有無	再資源化施設の名称等	所在地	○蛍光灯、H I Dランプ	・再資源化する ・再資源化しない	・	・	硬質塩化ビニル管・継手	・再資源化する ・再資源化しない	・	・	硬質塩化ビニルパイプ・鋼管・継手	・再資源化する ・再資源化しない	・	・	種 類	再利用する場所（箇所）等	・	・	・	・	・	・	・	・	⑤1 施工調査	<div><table><tr><th colspan="3">分析調査を行う特別管理産業廃棄物の種類</th><th>採取する部位又は箇所等</th><th>採取する数量</th></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr></table></div> <div><table><tr><th>特別管理産業廃棄物の種類</th><th>処理施設の名称等</th><th>所 在 地 等</th></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr></table></div>	分析調査を行う特別管理産業廃棄物の種類			採取する部位又は箇所等	採取する数量	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	特別管理産業廃棄物の種類	処理施設の名称等	所 在 地 等	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	⑦石綿作業主任者	<p>○除去工法</p> <p>○作業場は、散水等により湿潤化し、手ばらしによること『改9.1.5』</p> <p>○やむを得ず破壊しなければならない場合には、十分に湿潤化した状態で行うこと。</p> <p>○除去物については、粉塵の飛散防止に努め、特に破碎されたアスベスト含有成形版については、湿潤化の上、丈夫なプラスチック袋に入れる等の飛散防止措置を講ずること。</p> <p>○石綿障害予防規則 第19条に基づく、「石綿作業主任者」を選任すること。</p>	②①足場	<p>足場を設ける場合、[2.2.4] (b) によるほか、設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」（厚生労働省 平成21年4月「手すり先行工法に関するガイドライン」について（別紙1））における2の（2）手すり据置方式、又は（3）手すり先行専用足場方式により行うこと。</p>
	建設廃棄物の種類	中間処理施設又は再資源化施設の名称等	所 在 地																																																																																															
	○コンクリート	・ ・	・																																																																																															
	コンクリート及び鉄から成る建設資材（PC板、コンクリート平板、コックリト二次製品等）	・	・																																																																																															
	○建設発生木材	・ ・	・																																																																																															
	○アスファルト塊	・ ・	・																																																																																															
	金属類	・	・																																																																																															
小型二次電池	・	・																																																																																																
建設廃棄物の種類	再資源化の有無	再資源化施設の名称等	所在地																																																																																															
○蛍光灯、H I Dランプ	・再資源化する ・再資源化しない	・	・																																																																																															
硬質塩化ビニル管・継手	・再資源化する ・再資源化しない	・	・																																																																																															
硬質塩化ビニルパイプ・鋼管・継手	・再資源化する ・再資源化しない	・	・																																																																																															
種 類	再利用する場所（箇所）等																																																																																																	
・	・																																																																																																	
・	・																																																																																																	
・	・																																																																																																	
・	・																																																																																																	
分析調査を行う特別管理産業廃棄物の種類			採取する部位又は箇所等	採取する数量																																																																																														
・	・	・	・	・																																																																																														
・	・	・	・	・																																																																																														
・	・	・	・	・																																																																																														
・	・	・	・	・																																																																																														
特別管理産業廃棄物の種類	処理施設の名称等	所 在 地 等																																																																																																
・	・	・																																																																																																
・	・	・																																																																																																
・	・	・																																																																																																
・	・	・																																																																																																
3 現場利用する再資源化された建設廃棄物			⑤2 特別管理産業廃棄物の処分			③監督職員事務所の備品等			④仮設便所																																																																																									
4 産業廃棄物広域認定制度の活用			3 P C Bを含む機器類			3 監督職員事務所の備品等			⑤工事用水																																																																																									
5 最終処分する建設廃棄物			4 P C B含有シーリング材			⑥工事電力																																																																																												
⑥処理に注意を要する建設廃棄物			5 特殊な建設副産物の回収及び処分																																																																																															
⑦建設発生土の処理			⑥①適用																																																																																															
			②施工調査																																																																																															
			3 アスベスト粉じん濃度測定																																																																																															
			4 アスベスト含有吹付け材の除去																																																																																															
			5 アスベスト含有保温材等の除去																																																																																															
			6 アスベスト含有成形板の除去																																																																																															



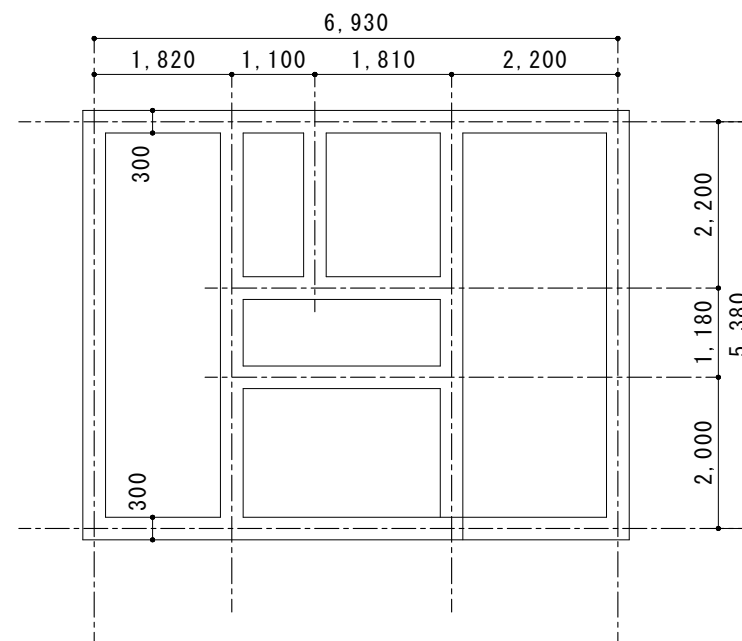
解体前敷地現況図 1/400



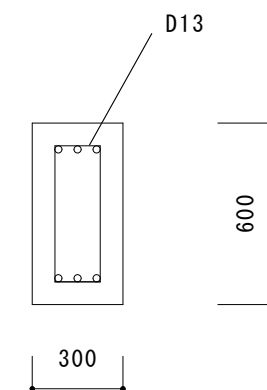
解体後敷地外構図 1/400



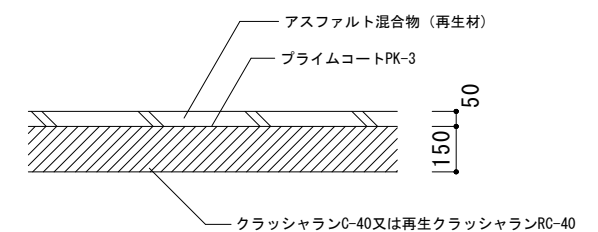
平面図 1/100



基礎伏図(参考図) 1/100



基礎断面図(参考)



アスファルト舗装詳細図

※不可視部分については、変更の対象とする
※建物の解体に必要な仮設については任意仮設とする
これによりがたい場合(周辺建物へ影響等の恐れがあると考えられる場合)は監督職員と協議する